

阪南市埋蔵文化財報告XIV

山中溪地区内わんぱく王国建設に伴う  
埋蔵文化財確認調査報告書

1992年

阪南市教育委員会

## は し が き

私たちの阪南市は、昨年10月に市制をむかえたばかりの新しい市です。

明治期の町村制度が確立して以来数度の合併をくりかえし、1972年に南海町と東鳥取町が合併して阪南町が誕生しました。この時の人口が32,000人余り。そして19年を経た1991年10月市制を施行しました。この間年間1,000人を超えるペースで人口の増加がありました。こうした人口増の背景には、さまざまな住宅建築等の増加があり、各種の開発行為があります。

教育委員会では、文化財を主管する立場から、埋蔵文化財等を後世に伝承する方法を確立し、努力を重ねているところであります。このため、開発行為に伴って工事着手前に緊急の発掘調査等を実施しています。

わんぱく王国建設は、本市のふるさと創生事業として計画している事業です。建設が予定されている山中溪地区は、近世期には紀州街道の宿場町として栄え、今もなおその当時の面影が残されていることから、町並み保存等が検討されています。

ここに、今回のわんぱく王国建設に伴う埋蔵文化財の確認調査報告を行います。遺構、遺構等は検出されませんでした。埋蔵文化財の存在の有無を確認するといった面での成果はありました。市内の文化財を知る上で活用していただければ幸いです。

末筆ではありますが、調査に御協力下さった土地所有者ならびに関係者に感謝いたしますと同時に、今後とも文化財の保護にご理解、ご協力をお願いいたします。

1992年3月

阪南市教育委員会  
教育長 庄司菊太郎

## 例 言

1. 本書は、阪南市が計画、実施する山中溪地区内わんぱく王国建設に伴う埋蔵文化財確認調査概要報告書である。
2. 調査は、阪南市教育委員会社会教育課が実施した。調査には、同課職員三好義三、光石鳴巳、同嘱託職員田中早苗があたった。
3. 調査にあたっては、調査地の土地所有者等関係各位の理解と、協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
4. 本書の執筆、編集は、三好が行った。また、実測図、遺物観察表等の作成は、田中をはじめとして下記の調査従事者による。
5. 本書内に示した標高は、T.P.であり、方位は既成の地形図等を使用したものを除いて磁北である。
6. 本調査における記録は、実測図面、写真、カラースライド等に保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

### (調査従事者)

和田旬世、上野 仁、小林克子、戸崎美津弘、上田 聡、石橋孝広、丹羽 徹、渡邊綾香

### 山中溪地区内わんぱく王国建設に伴う埋蔵文化財確認調査報告

## 一 目 次

はしがき

第1章 調査に至る経過及び歴史的環境 1

第2章 調査の成果 3

# 第1章 調査に至る経過 および周辺の歴史的環境

阪南市は、大阪府の南部に位置する。北は、大阪湾に面し、南は、紀泉山脈を隔て和歌山県と接している。ふるさと創生事業として計画されているわんぱく王国は、市域の南方部に所在する山中溪地区内に建設される予定である。事業主体である阪南市では、教育委員会と協議を重ね、事前に埋蔵文化財の確認調査を実施することとなった。

調査は、管理棟等が建設される予定の平坦部分とアスレチック等が設置される山間部分に分けて行った。平坦部分では、対象地内にトレンチを設定し、遺構、遺物の有無の確認を行った。山間部分は、分布調査とし、対象地域内を踏査することによって、石切り場等の遺構等の確認を行った。

阪南市は、「和泉砂岩」の産出地として知られ、古墳時代より石切りが行われていたとされる。この「和泉砂岩」を切り出した跡は、市内各地区に存在し、とりわけ、先年発掘調査が実施され、その全容が明らかになった「箱作ミノバ石切り場跡」は、同種の遺跡としては、全国でも意義深いものとなっている。山中溪地区内にも、今回の調査地区の北方で石切り場跡が確認されている。これらの多くは、概ね近世期以降の所産と考えられる。近世には、この名産「和泉石」で生計をたてる「石工」が増え、和泉国周辺のみならず、北は江戸から南は九州にまで出稼ぎに行く石工が存在した。

本調査区内においても、こうした石切り場跡の存在が、十分に想定された。調査成果については、次章で述べることとする。

また、この山中溪地区には、旧街道（熊野、紀州街道）に沿った歴史的な町並みが、比較的良好に残されており、現在町並み保存に向けた取組みが検討されている。



- |              |           |
|--------------|-----------|
| 1 皿田池古墳      | 37 飯ノ釜畑遺跡 |
| 2 平野寺(長業寺)跡  | 38 金剛寺遺跡  |
| 3 高田山古墳群     | 39 馬川遺跡   |
| 4 兩山遺跡       | 40 内畑遺跡   |
| 5 玉田山古墳群     | 41 下出北遺跡  |
| 6 玉田山遺跡      | 42 聖堂遺跡   |
| 7 寺田山遺跡      | 43 向出遺跡   |
| 8 岩筒山遺跡      | 44 久保田遺跡  |
| 9 石田山遺跡      | 45 高田西遺跡  |
| 11 塚谷古墳群     | 46 高田南遺跡  |
| 16 箱作古墳      | 47 向山遺跡   |
| 17 三味谷遺跡     | 48 小口谷遺跡  |
| 18 三升五合山遺跡   | 49 西畑遺跡   |
| 19 貝掛遺跡      | 50 正方寺遺跡  |
| 20 神光寺(蓮池)遺跡 | 51 黒田南遺跡  |
| 22 田山遺跡      | 52 黒田西遺跡  |
| 24 箱作今池遺跡    | 53 鳥取遺跡   |
| 25 茶屋遺跡      | 54 鳥取北遺跡  |
| 26 四郎太郎遺跡    | 55 鳥取南遺跡  |
| 27 稻丸遺跡      | 56 西鳥取遺跡  |
| 28 井山城跡      | 57 茨遺跡    |
| 29 箱作ミノハ石切場跡 | 58 田山東遺跡  |
| 30 筋遺谷遺跡     | 59 箱作南遺跡  |
| 31 箱作轟谷石切場跡  | 60 山中溪遺跡  |
| 32 玉田山須惠器窯跡  | 61 馬川北遺跡  |
| 34 井岡遺跡      | 62 和泉鳥取遺跡 |
| 35 自然田遺跡     | 63 福鳥遺跡   |
| 36 箱作仏屋谷石切場跡 | 64 下出遺跡   |

第一四 阪南市内遺跡文化財分布図

## 第2章 調査の成果

### 1. 平坦部の調査の概要

山中川に流れ込む小さな谷の入口に形成された平坦部の調査である。1970年頃に造成工事が行われ、かなりの量の盛土がなされていた。

この平坦部約10,000m<sup>2</sup>に、2m×5mのトレンチを15ヵ所設定して調査を実施した。主にバックホウで掘削をした後、遺構確認を行った。谷の入口にあたる調査区の西側部分では、盛土の量が1.5m以上にも達し、造成工事以前の表土面を確認することはできなかった。谷の出口付近の調査区東側部分では、ほとんどのトレンチで表土面を確認することができた。

しかし、いずれのトレンチでも遺構は検出されなかった。遺物についても、土師器片、陶磁器片、瓦片等が出土しているが、明確に造成工事以前の表土面以下で確認できたものはなかった。

### 2. 山間部の調査

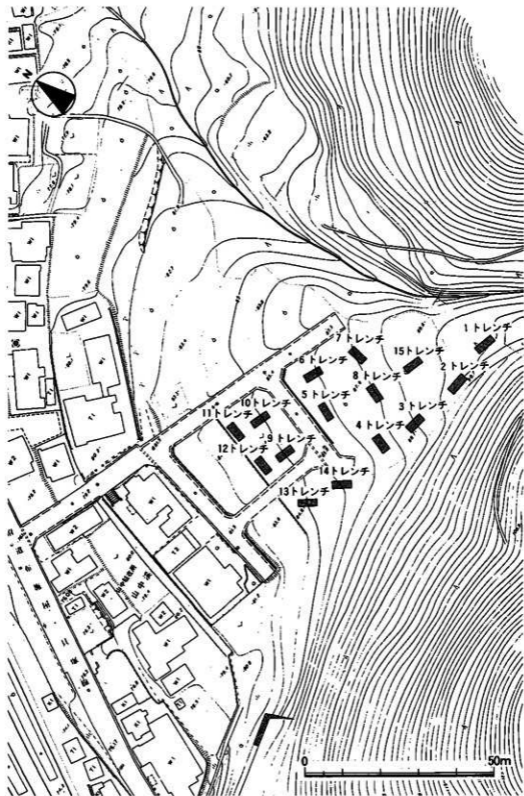
建設予定地約12haについて調査を実施した。上記の平坦部を形成する山中川に流れ込む谷をはじめ、その谷に流れ込む数々の小さな谷に至るまで、予定地内のはほぼ全域を踏査した。

山中川に流れ込む谷の右岸で、石積み状の跡が確認された。円形に掘り窪め（径約3.1m）谷川に面する部分に石積みがなされ、その部分が開放された形状を呈している。梅雨時等の湧水期に谷川からの水を取り入れ、溜めたものであろうか。

しかし、石切り場跡他の遺構等は、確認されなかった。数箇所では岩板の露呈した部分を確認したが、石製の未製品やノミ跡等は認められず、またコッパも散乱していなかったため、石切り場跡とは断定できなかった。



第2図 わんぱく王国事業予定地および調査地区周辺図



第3図 平坦部調査トレンチ位置図





・平坦部調査前



・平坦部調査風景



・山間部石積状跡



・山間部岩板露呈付近



・山中溪地区歴史の町並み



・山中溪地区歴史の町並み

阪南市埋蔵文化財報告 XIV  
山中溪地区内わんぱく王国建設に伴う  
埋蔵文化財確認調査報告

1992年3月31日

発行：阪南市教育委員会社会教育課  
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：西岡総合印刷株式会社  
和歌山市吹屋町5丁目54